デート DV の実態の検討 (8)

交際人数, 居住形態と被害行為との関連

○松井めぐみ¹・宮前淳子²・宇井美代子³・竹澤みどり⁴・寺島瞳⁵(¹岡山大学・²香川大学・³玉川大学・⁴富山大学・⁵筑波大学)

キーワード: デート DV, 交際人数, 居住形態

A study of actual condition of Dating Violence (8): The relation with the victimizing behavior and dating experience or living condition

Megumi MATSUI¹, Junko MIYAMAE², Miyoko UI³, Midori TAKEZAWA⁴, Hitomi TERASHIMA⁵(¹Okayama Univ., ²Kagawa Univ., ³Tamagawa Univ., ⁴Univ. of Toyama, ⁵Univ. of Tsukuba)

Key words: Dating Violence, dating experience, living condition

目 的

デート DV の被害について, 伊田 (2007) は若者は性的経験を伴う親密な経験が少ない (初めてである) ために, その面での免疫がなく, いやなことがあったとしても性暴力被害であると思いたくないので, 誰にも話さず, DV 被害につながりやすいと述べている。交際経験人数と性的リスク対処意識は研究がされているが (上野ら, 2012), 交際人数と DV 被害との関連は明確ではない。また交際相手と「二人で閉じた関係」にあると, 他者の視点が入りにくく, デート DV が顕在化, 意識化されにくいので, 一人暮らしの方が被害を受けやすい可能性がある。だが親密な恋愛関係が始まりやすい高校生も DV 被害に遭うことから, 家族と同居していても気をつけるべき被害内容があると考えられる。そこで本研究では, これまでの交際人数と居住形態を訊ね, 恋人からされた被害行為との関連性をそれぞれ探ることを目的とする。

方 法

調査対象者: 大学生・看護専門学生 158 名 (男性 28 名・女性 126 名)。平均年齢 19.8 歳 ($SD=1.04$)。

調査内容: ①基本情報 (性別, これまでに恋人がいた経験の有無など), ②これまで付き合った人数 (以下, 『交際人数』), ③居住形態 (一人暮らし, 実家で家族と同居, その他から選択), ④恋人にされて精神的・身体的・性的に, 傷ついた・見下された・怖い・嫌だなどと感じた行為 (以下, 『恋人にされた行為』), 等。

調査手続き: 授業時間に質問紙票を配布し, 学生に自宅に持ち帰り記入した後に郵送にて返送してもらった。835 名に配布したうち 158 名から回答が得られた (回収率 18.9%)。

調査時期: 2010 年 1 月～2 月。

結 果 と 考 察

交際人数

現在もしくは過去に恋人がいと回答した 122 名中, 交際人数を記入したのは 121 名 (平均交際人数=2.68 人, $SD=2.00$) であった。交際人数別では, 交際人数「1 人」が 43 名 (35.54%), 「2～4 人」が 61 名 (50.41%), 「5 人以上」は 17 名 (14.05%) であった。

居住形態

恋人有りの回答者 122 名全員が居住形態も記入しており, 内訳は「一人暮らし」は 67 名 (54.91%), 「実家で家族と同居」は 49 名 (40.16%), 「その他 (寮など)」は 6 名 (4.92%), であった。

恋人にされた行為

KJ 法により, 「見下し」「浮気」「嫉妬・束縛」「ないがしろ・放置」「性的行為の要求」「第三者への気のある素振り」「約束の反故」「怒りをぶつける」「趣味・主張の押しつけ」「コントロール」「関係解消」「身体的暴力」「性的行為の強制」「信頼関係の破綻」「性格への嫌悪」「第三者への迷惑行為」「その他」の 17 カテゴリーが抽出された (竹澤ら, 2010)。

最長交際期間と恋人にした行為との関連

『交際人数』と『恋人にされた行為』との関連性を把握するため, 『交際人数』を行, 『恋人にされた行為』を列としたクロス表に対して, 「その他」を除き双対尺度法を行い, 分析結果を図にした。結果図とクロス集計表から, 交際人数「1 人」の近くに「怒りをぶつける」「コントロール」「性的行為の強制」「見下し」「浮気」が布置され, 「2～4 人」の近くに「ないがしろ・放置」「見下し」「浮気」「嫉妬・束縛」「性的行為の要求」「信頼関係の破綻」, 「5 人以上」の近くに「身体的暴力」「嫉妬・束縛」「性的行為の要求」が布置されていた。交際人数「1 人」の場合, 怒鳴られたり性的行為を強制されたりして交際に対する恐怖心を持ち, その後, 誰とも交際していない可能性が考えられる。また交際経験が少ないため, 相手にいようにコントロールされやすいのかもしれない。「2～4 人」の場合, 多くの被害行為を経験しており, 見下しやないがしろ, 浮気といった, 相手から「軽く扱われる」経験が増えるとともに, 嫉妬・束縛や性的行為の要求も増えている。だが「5 人以上」の場合も「2～4 人」の被害経験と重なっているため, 交際人数が増えても, 必ずしもいろいろな被害に遭うわけではないようであり, また交際する相手が変わっても同様の被害経験が繰り返されてしまうかどうかは明確ではない。交際人数の多さではなく, 最初にどのような人と交際をしたかが, その後の交際には重要なことかもしれないが, 交際人数と交際期間との関係や, 交際人数と被害経験への対処等との関連からも検討してみる必要がある。

居住形態と恋人にされた行為との関連

居住形態 (一人暮らし, 実家で家族と同居) によって, 『恋人にされた行為』に違いがあるか χ^2 検定を行ったところ, 1 人暮らしの方が「性的行為の強制」($\chi^2=3.82, df=1, p<.10$)「信頼関係の破綻」($\chi^2=3.82, df=1, p<.10$) の被害を経験したことが多い傾向にあり, 実家暮らしの方が「第三者への気のある素振り」($\chi^2=5.67, df=1, p<.05$)「嫉妬・束縛」($\chi^2=3.46, df=1, p<.10$) の被害が多いという結果であった。一人暮らしの場合, その部屋で性的行為を強制された場合, 逃げ出したり誰かに助けを求めたりするのが難しいため, 被害に遭いやすく, また一人だと侮られて信頼を踏みにじる行為をされやすい可能性がある。よって一人暮らしでは, 交際相手以外の人達とのつながりの有無が大事になってくると考えられる。実家暮らしの場合は, 一人暮らしほど自由に会える訳ではなく, 周りに家族という深い繋がりのある人達がいるため, 加害者は自分の方にもっと目を向けさせよう, 嫉妬を煽るような言動や, 束縛をしてくると考えられる。

以上の結果から, 交際人数や居住形態により, それぞれ遭いやすい被害が異なることが分かり, 今後の予防, 啓発活動の参考になると思われる。しかし本研究では男性のデータが少ないのと, 被害行為を受けた時の居住形態, 交際人数まで確認していないため, より詳細な調査が必要である。